

大阪西北RC古市様、ようこそいらっしゃいました。ごゆっくり例会をお楽しみ下さい。

4月29日地区協議会に参加された皆様、ご苦労様でした。また懇親会に参加していただいた皆様有難うございました。いよいよ次年度の足音が大きくなってきましたが、あと2ヶ月ラストスパートをかけ走り続けたいと思っております。

私ゴールデンウィークは横浜に言っており、社会人野球の甲子園といわれる都市対抗野球:神奈川県第一予選を相撲原球場に連日応援に行っておりました。神奈川県には12のクラブチームがあり、ベスト4が第二次に進めるシステムですが、メインスポンサーのないクラブチームですので、年間選手から会費を集めて運営している状況です。全体練習は週に1回程度、後は自主トレです。ですから社会人チームとはいっても、高校野球の甲子園に出られるかどうかというくらいのレベルですから、企業チームと対戦した時はすべてのクラブチーム7回コールド負けです。それでも選手たちは必死に一生懸命プレーし、大きな声を出し、勝利したときは興奮しました。社会人野球もプロ野球と同じ様に申告敬遠が採用されており、一死三塁か申告敬遠2回あり、満塁から左前サヨナラヒットを打った家族も応援に来ており、小学校低学年の男子2人が大喜びをし、その隣で奥様が感動し、美しい涙を流していたシーンがありました。夫婦愛、家族愛あふれる愛情が表れ、ヒットよりもそのシーンにすこし感動いたしました。

2017年徳島県高校野球大会一回戦の試合で、9回裏1対1一死三塁の場面で、ベンチは敬遠の指示を出したのですが、2級目キャッチャーボックスで試合が終わりました。敬遠のときはキャッチャーはピッチャーが投げたボールが手から離れるまではキャッチャーボックスの中に必ずいなければなりません。片足が出たらキャッチャーボックスになります。今年からプロ野球は申告敬遠になっており、キャッチャーボックスはなくなります。こういうルール審判の方知っていてもなかなか先刻しにくいと思いますが、徳島大会の球審ルールといえどもよく勇気ある宣告ができたと思っておりますが、内心は複雑な気持ちだったと思っております。